

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 昭和46年			
総合計画	大項目	基本目標	06 健全で自立したまちづくり
	中項目	基本施策	01 簡素で効率的な行政運営
	小項目	施策	13 その他事務管理(秘書)
事務事業名			01 表彰事業
根拠法令・規程等			備前市表彰条例ほか
問 担当課(室)			総務課
合 職・氏名			秘書広報係長・入江章行
先 電話			0869-64-1800

事業の実施	
対 象 (誰・何に対して)	郷土の誇りとしてひとしく敬愛を受ける者、行政委員、文化貢献、公共事務及び公共事務ほう助など、市勢の振興に寄与した者、市民の模範と認められる者など
目 的 (何のために)	対象者を表彰又は推薦し、その功績、貢献を講えること
行 政 活 動 (どのような方法で)	名誉市民章、市民栄誉章、功労表彰・善行表彰、栄典(叙位叙勲)を授与及び伝達するための事務作業
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	対象者を表彰又は推薦し、その功績、貢献を講えることにより、市民をはじめ多くの方が敬愛、賛美、共感の念を得られるようにすること

事業の実績					
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	
表彰者選考委員会開催	回	1	1	1	
功労表彰	人	1	4		
善行表彰	人	1	5	1	
叙位叙勲・褒章の推薦、伝達	回	5	1	1	
市民栄誉章	人	1			
事業費					
直接事業費	千円	139	325	19	
必要人員	人	0.18人	0.05人	0.07人	
必要人件費	千円	1,499	482	701	
事業費	千円	1,638	807	720	
財源					
国	千円				
県	千円				
市	千円				
その他()	千円				
一般財源	千円	1,638	807	720	
受益者負担比率	%				

結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
功労・善行表彰者数	人	2	9	1
対前年対比	%	-	450.0%	11.1%
活動コスト	円	647,000	527,000	256,000
単位当たりコスト	円	323,500	58,556	256,000

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
功労・善行表彰があること	目標値(A)	1	1	1	1
	実績値(B)	2	9	1	到達目標年度
	達成率(B/A)	200.0%	900.0%	100.0%	-
成果指標設定の考え方・式や説明					
対象者の功績、貢献を講え、市民をはじめ多くの方が敬愛、賛美、共感の念をもってもらうために表彰者が現にあること =数値1以上が目標となる					

事業の目的、対象、内容を考えてから目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> A 判定理由・課題認識
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明	叙位叙勲、市表彰という妥当な事務事業であって、その存廃を検討する必要はないと考えるが、市表彰にあっては対象を功績がほぼ固まった者に一部限定して今後実施する予定となっている。
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
	有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
市民参画度		<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	施策の継続性、連続性こそが本事業の有効性である。

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	結果指標量②			成果指標量	
	1	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合
状況			○			
説明	叙位叙勲、市表彰という妥当な事務事業であって、ことに市表彰である功労・善行表彰は、対象範囲の見直しを行った上で施行してしていくこととなる。潜在候補者調査の事前作成などを行うため業務量増大が見込まれるが、将来的に効率性を高める有効策としている。					

総合評価		評価区分<A~E>
永続的に行うことで、その有効性が発揮される事業であって、継続実施するべきである。		B

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
状況		○				
説明	直接事業費の圧縮の余地はほとんどなく、事業実施に係るマニュアルなどによる担当者スキルアップによる効率化を図っていく。					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
効率性		潜在候補者調査などを通じて、課内OJTによる担当者スキルアップ	平成21年~	突発的な叙位叙勲の推薦に係る標準的な作業時間(30h/人)を分散し、効率性を高められる。		